



# 福祉教育プログラム



令和4年度版



美濃加茂市社会福祉協議会

ともに生きる力  
～社協は学校とともに、子どもの学びや育ちを支える  
「福祉教育」を推進しています！～

### **学校と地域のつなぎ役として～福祉教育における社協の機能・強み～**

“社協の一番の『強み』は、地域のさまざまな人材や社会資源とつながりをもっていること”

社協は地域福祉をすすめていく組織です。そのために福祉教育を大切に、学校を含めた地域の様々な場面で進められる福祉教育を推進・支援しています。学校ですすめられる福祉教育に対しては、プログラムの企画段階からの相談、地域の社会資源や人材をつなぐコーディネートを担当しており、地域のさまざまな資源を駆使したプログラムを提案することができます。

“子どもたちの「学びたい、活動したい」という気持ちを、具体的な活動につなげます”

学校の授業や行事の範囲ではおさまらない、子どもたちの「もっと学びたい、もっと活動したい」という気持ちを受け止める地域の受け皿を用意することも強みです。社協にはそのような子どもたちの気持ちを具体的な活動につなげていく応援ができます。子どもたちの「ともに生きる力」をはぐくむためには、学校・家庭・地域が連携しつつ、地域全体で取り組むことが不可欠ですが、社協は地域のつなぎ役を担うことができます。

### **福祉教育を通してはぐくまれる力**

地域の人、福祉の当事者との出会いや関わりを通して、自分と違う立場の人と認め合い、人の気持ちに共感できる力や自分の考えを表現する力、考えを共有し実行につなげていく力等の「ともに生きる力」をつけていきます。さらに子どもたちが地域の中で交流や活動をすることで地域の人から感謝されたり、大切に思われていることを実感でき、自己肯定感や自己有用感を積み重ねていくことができます。

社協が1970年代からすすめている福祉教育の取り組みは、まさしくこの「生きる力」に通ずるものであり、そのためのノウハウと人や社会資源のコーディネート力を持っています。子どもたちの学びを地域と作っていくために、ぜひ社協をご活用ください。

全国社会福祉法人 全国社会福祉協議会「ともに生きる力」より抜粋

# 美濃加茂市社会福祉協議会が提供できる福祉教育

## 1. 貸し出し可能備品（事前予約必要）

- ・ユニバーサルデザイン商品
- ・車いす
- ・アイマスク・白杖
- ・点字器
- ・高齢者疑似体験セット（大人用5セット 児童用5セット）
- ・フライングディスク 1セット（障がい者スポーツ）
- ・ポッチャボール 2セット（障がい者スポーツ）
- ・ゴールボール 2個（障がい者スポーツ）
- ・ペガーボール 1セット（障がい者スポーツ）



## 2. 社協職員による出前講座 ～さまざまな授業との関連を考慮して～

① 福祉ってなに？ ～バリアフリーとユニバーサルデザイン～ P6	
<p>子どもたちの学年に合わせて、わかりやすく、福祉について学び、ふくしのこころを養うことを目的とします。</p> <p>町の中にあるバリアフリー・ユニバーサルデザインを学び、皆が住みやすい社会とはどのようなものかについて考えます。</p>	
<p>関連可能な単元</p>	<p>小学6年社会⑥ P40～41 ③わたしたちのくらしと日本国憲法 「だれもが楽しめる公園」</p> <p>中学社会 公民 P166～167 「社会保障の仕組み」</p> <p>中学家庭科 P284～285 「ユニバーサルデザイン みんなが暮らしやすい社会を目指して」</p> <p>中学道徳 1年 P40～41 「共生 持続可能な社会のために」</p>
	<p>高校倫理（実教出版） P203 第2章 第4節 地域社会の課題</p> <p>高校現代社会（東書） P146～148 第4章 現代の経済と国民福祉 ④社会保障の役割</p> <p>高校現代社会（第一学習社） P144～147 第5章 現代の経済社会とわたしたちの生活 ⑱社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障</p>
② ボランティアをよく知ろう！ P8	
<p>ボランティア活動の「いろは」について学び、子どもたちが実際にできるボランティア活動について紹介します。</p>	
<p>関連可能な単元</p>	<p>小学5年国語 P104～109 「明日をつくるわたしたち」</p> <p>小学5年道徳 P148～157 (33) 明日へ向かって (34) ちひろの想い</p>
	<p>小学6年社会⑥ P26～27 2. わたしたちの生活と政治 ①震災復興の願いを実現する政治 「さまざまな支援と絆」</p> <p>高校倫理（実教出版） P178～181 第1章 第6節 社会参加と幸福</p>
③ ふくしの仕事を知ろう！ P10	
<p>福祉の専門職についている人から直接お話を聞き、福祉分野のしごとについて学びます。</p>	
<p>関連可能な単元</p>	<p>小学5年社会⑥ P38～39 ④情報化した社会とわたしたちの生活 ひろげる『社会を変える情報 -福祉と情報化』</p> <p>小学6年社会⑥ P17 2. わたしたちの生活と政治 ①子育て支援の願いを実現する政治 ひろげる『川口市の福祉事業』</p>

<b>④ 総合福祉会館見学</b>		<b>P12</b>
高齢者等が利用している総合福祉会館を見学します。		
関連可能な単元	小学6年社会⑮ P17 2. わたしたちの生活と政治 ①子育て支援の願いを実現する政治 ひろげる『川口市の福祉事業』	

<b>⑤ 障がい理解</b>		<b>P13</b>
障がいについて、「大変そう」「かわいそう」で理解を留めずに、障がいのある人を、個人として尊重するための正しい理解をサポートします。		
関連可能な単元	小学4年道徳 P88～91 ⑱せきが空いているのに  中学社会 公民 P52～53 「平等権② 共生社会を目指して」  中学社会 公民 P74 「だれもが暮らしやすい共生社会に」	中学道徳 1年 P36～39 相互理解・寛容 「⑦私の話を聞いてね」  中学道徳 2年 P50～56 家族愛、家庭生活の充実「⑩異なり記念日」 「共生 持続可能な社会のために」  中学道徳 3年 P63～67 相互理解・寛容 「⑬ソーシャル・ビューー 見えない人と楽しむ 美術鑑賞」

<b>⑥ 障がいを感じて知ろう！ ～発達障がいを理解する～</b>		<b>P17</b>
発達障がいがどのようなものかを知り、コミュニケーションやサポートの仕方を学びます。		
関連可能な単元	小学4年道徳 P88～91 ⑱せきが空いているのに  中学社会 公民 P52～53 「平等権② 共生社会を目指して」  中学社会 公民 P74 「だれもが暮らしやすい共生社会に」	中学道徳 1年 P36～39 相互理解・寛容 「⑦私の話を聞いてね」  中学道徳 2年 P50～56 家族愛、家庭生活の充実「⑩異なり記念日」 「共生 持続可能な社会のために」  中学道徳 3年 P63～67 相互理解・寛容 「⑬ソーシャル・ビューー 見えない人と楽しむ 美術鑑賞」

<b>⑦ 障がいのある方との交流</b>		<b>P18</b>
障がい者支援施設「ひまわりの家」との交流会を通して、当事者と実際に関わりながら、同じ目線で物事を楽しむことができること、コミュニケーションの取り方を学びます。		
関連可能な単元	小学4年道徳 P88～91 ⑱せきが空いているのに  中学社会 公民 P52～53 「平等権② 共生社会を目指して」  中学社会 公民 P74 「だれもが暮らしやすい共生社会に」	中学道徳 1年 P36～39 相互理解・寛容 「⑦私の話を聞いてね」  中学道徳 2年 P50～56 家族愛、家庭生活の充実「⑩異なり記念日」 「共生 持続可能な社会のために」  中学道徳 3年 P63～67 相互理解・寛容 「⑬ソーシャル・ビューー 見えない人と楽しむ 美術鑑賞」

<b>⑧ 障がい者スポーツ体験</b>		<b>P19</b>
ボッチャボール、ペギーボール、ゴールボールなどを使用し、障がい者スポーツの体験をします。また、パラリンピックについても触れ、障がい者スポーツへの関心を促します。		
関連可能な単元	小学4年道徳 P122～123 「パラリンピックの競技」  中学社会公民 P36 「オリンピック・パラリンピックと日本の心」	中学保健体育 口絵1～4、P176～177 「オリンピック・パラリンピック」  中学道徳 2年 P134～138 希望と勇気、強い意志「㊟夢の力」

<b>⑨ 高齢者とのコミュニケーション・高齢者理解</b>		<b>P23</b>
寸劇やワークを通して、高齢者の身体面だけでなく、精神面の変化を学び、高齢者への接し方を学びます。		
関連可能な単元	小学5年社会㊟ P38～39 ④情報化した社会とわたしたちの生活 ひろげる『社会を変える情報 -福祉と情報化』  中学社会 公民 P12～13 「少子高齢化 変わる人口構成と家族」  中学家庭科 P258～259 「家族や地域の高齢者との関わり」  高校倫理（実教出版） P200～202 第2章 第3節 家族の課題	

<b>⑩ 訪問介護（ホームヘルパー）って何？</b>		<b>P25</b>
在宅生活をされる高齢者、障がい者のための「訪問介護」について学びます。		
関連可能な単元	小学5年社会㊟ P38～39 ④情報化した社会とわたしたちの生活 ひろげる『社会を変える情報 -福祉と情報化』  中学社会 公民 P12～13 「少子高齢化 変わる人口構成と家族」  中学家庭科 P258～259 「家族や地域の高齢者との関わり」  高校倫理（実教出版） P200～202 第2章 第3節 家族の課題	

<b>⑪ 地域のためにできること</b>		<b>P27</b>
生活支援とは何かを理解し、地域の中で学生の自分たちができることは何かを考えます。		
関連可能な単元	中学社会 公民 P8～9 持続可能な社会に向けて P12～13 少子高齢化 変わる人口構成と家族 P16～17 新しい情報技術で社会が変わる P22～23 多文化共生を目指して P52～53 平等権② 共生社会を目指して P56～57 社会権 豊かに生きる権利 P62～63 新しい人権① P74 誰もが暮らしやすい共生社会に P116～117 住民参加の拡大と私たち P126 空き家・廃校は新たな資源 P166～167 社会保障の仕組み P168～169 少子高齢化と財政 P180 SDGsから地球規模の課題について とらえよう	中学社会 歴史 P197 全ての子どもに教育を P270～271 持続可能な社会に向けて P274～275 震災の記憶を語りつぐ  高校倫理（実教出版） P178～181 第1章 第6節 社会参加と幸福  高校倫理（実教出版） P200～202 第2章 第3節 家族の課題

<b>⑫ 貧困について考える</b>		<b>P30</b>
「貧困＝経済的に苦しいこと」ではなく、「人とのつながりが希薄であること」の理解から、自分や他人を大切にすることの重要性を伝えます。		
関連可能な単元	中学社会 公民 P48～49 「基本的人権と個人の尊重」  高校現代社会（東書） P146～148 第4章 現代の経済と国民福祉 ④社会保障の役割  高校現代社会（第一学習社） P144～147 第5章 現代の経済社会とわたしたちの生活 ⑱社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障	

<b>⑬ 自分の権利～相手の背景～</b>		<b>P31</b>
子どもの「権利」について学び、社会から守られているという視点から安心して生活が送っていけるということを伝えます。また、相手の背景について考えることで、他者と共存するために必要な視点について学びます。		
関連可能な単元	中学社会 公民 P48～49 「基本的人権と個人の尊重」	

<b>⑭ ダイバーシティ～価値観の多様性について学ぶ～</b>		<b>P33</b>
様々な価値観が混在する現代社会の中で、お互いの価値観の差異を認め合い、尊重しあうことについて学びます。		
関連可能な単元	中学社会 公民 P22～23 「多文化共生を目指して」	

### 3. 講師紹介

P 35参照

### 4. 参考図書紹介

P 36～37参照

# 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「福祉ってなに？ ～バリアフリーとユニバーサルデザイン～」

2 単元（題材）の目標

福祉の基本的な考え方について、ユニバーサルデザインなどの具体例を通して理解する。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等 社協：PC、アンケート、ユニバーサルデザイン資料

学校：スクリーン、プロジェクター

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	<p>・「ふくし」について知る</p> <p>発問 1：皆さんのみんなの福祉のイメージはどんなイメージですか？</p> <p>伝えたいこと</p> <p>色々な答えがでましたね。どのイメージも間違いではありません。福祉で大切なのは『色々な人、考えがある』ということ</p> <p>を覚えておくことです。</p>	<p>・どんな意見も否定せず受け止める。</p> <p>・いろいろなイメージが挙げられるよう発言を促す。</p>	<p>・積極的にイメージを言葉にしようとしているか。</p>
展開 1 10分	<p>発問2:ユニバーサルデザインって聞いたことがありますか？</p> <p><u>予想される答え</u></p> <p>・聞いたことあるけれど、どんなのかな？</p> <p>・みんなが使えるデザインのことだよ。</p> <p><u>伝えたいこと</u></p> <p>・ユニバーサルデザインは、いろいろな人、どんな人でも使いやすいデザイン</p> <p>・身の回りのものがユニバーサルデザインに変わってきている。</p> <p>・バリアフリーとユニバーサルデザインについて</p>	<p>実際のユニバーサルデザインの物品を見せたり回しながら、身近なユニバーサルデザインについて解説する。</p> <p>Powerpointの資料に沿ってユニバーサルデザインの解説をする。</p> <p>・ユニバーサルデザインの対象は「すべての人」ということを理解できるようにする。</p>	<p>・積極的にユニバーサルデザインを読み取ろうとしているか。</p> <p>・読み取れる情報から、ユニバーサルデザインの役割を考えているか。</p>
展開 2 10分	<p>発問3:次の写真を見て、気がつくユニバーサルデザインをあげましょう。</p> <p><u>多目的トイレ</u></p> <p><u>予想される答え</u></p> <p>・小さい子が一緒に入れるようになっている</p> <p>・手すりがついている</p> <p>・赤ちゃんが座る椅子がついている。</p> <p>・車いすやベビーカーで入れるように広いスペ</p>	<p>・多目的トイレはオストメイト（人工肛門）を利用している人へも対応できていることを付け加える。</p> <p>・高齢者、障がい者、子どもに使いやすいデザインは「みんなが使</p>	

<p>まとめ 10分</p> <p>5分</p>	<p>ースになっている。 ・障がいのある人のためのトイレがある。 <u>エレベーター</u> <u>予想される答え</u> ・車いすの人のための鏡がついている。 ・中に手すりがある。 ・下の方にもボタンがついている。 ・点字ブロックがある。</p> <p>・心のユニバーサルデザインについて考える。 <u>伝えたいこと</u> 目に見える「ところ」や「もの」だけではなく、「こうしたらいろんな人に便利で安全だな」「これだと快適に使えない人がいるんじゃないかな」など、いつも自分の身の回りのことや周りにいる人たちのちょっと先を想像し、私たちひとり一人が「こちら」にユニバーサルデザインを持つことが大切。 ・そのための第一歩として、まず、人を否定しないこと。</p> <p>アンケート記入</p>	<p>「使いやすい」デザイン</p> <p>・福祉=『ふだんのくらしのしあわせ』 ・それぞれの『ふだんのくらしのしあわせ』が違うということを理解する。 ・お互いの考えを尊重すること ・well-being=輝いて生きること</p>	<p>・今日の講義を振り返って、「福祉」の基本的な考え方について理解することができたか。</p>
------------------------------	--	---	--



## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名  ボランティアをよく知ろう！

2 単元（題材）の目標

ボランティアについて学ぶことで、社会貢献活動の意味や重要性を理解し、ボランティア活動を通して、地域の一員としての自覚を持つ。

3 本時の学習

（1）準備・資料等 社協：PC、アンケート

学校：プロジェクター、スクリーン、スピーカー

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	<b>発問1</b> ・ボランティアって聞いたことがありますか？ ・〇〇小学校のボランティア委員会はどんな活動をしていますか？ ・ボランティアって、どんな活動をしているのでしょうか？	・自由な発想で回答させる。 ・身近で聞いたボランティアについて掘り下げる。	
展開1 10分	<b>展開1</b> ・この写真は何をしている様子だと思いますか？（災害ボランティア） ⇒災害ボランティアについての説明 ・今日はまず、いろいろなボランティアを紹介していきます。 ⇒ノートテイク・要約筆記（障がいのある人に向けたボランティア活動） ⇒清掃ボランティア（多くの人が協力して行うボランティア活動） ⇒おもちゃ病院（特技や趣味を生かしたボランティア活動） ⇒読み聞かせボランティア（子どもや高齢者に向けたボランティア活動）	・それぞれのボランティア活動について、何をしているか、を自由にイメージしてもらい、それを発表してもらおう。 ・全て、誰か困っている人のために行っている活動、また、自分の特技や長所を生かした活動が多い事に着目する。	・さまざまなボランティア活動に興味・関心を持っているか。
展開2 5分	<b>展開2</b> ・ボランティアの四原則 1. 自主性・自発性（自分からやりたいと思うて行う活動） 2. 社会性・連帯性（たくさんの人が協力して行う活動）	・他人からすすめられたボランティアであっても、それをきっかけに続けていけば、それは自発的な活動になる。	

	<p>3. 無償性・無給性(お金ではない目的のために行う活動)</p> <p>4. 創造性・開拓性・先駆性(よりよい社会のために、今必要とされていることを考えて行う活動)</p>	<p>・在宅ボランティアや、有償ボランティアなど、新しい形のボランティアも増えてきている。</p>	
<p>演習 1 15分</p>	<p>・ワーク「どんなボランティアをやりたい？」</p> <p>1. 紹介したボランティアなどを元に、どのようなボランティア活動をやりたいか考える。</p> <p>2. その活動を選んだ理由と、その活動で生かせそうな自分の長所・強み・好きな事・特技などを考える。</p> <p>3. 4～5人の班で共有し、発表し合う</p> <p>4. 他の方の発表を聞いて、その人が生かせそうな他の長所や、他にどんなボランティア活動ができそうか提案する。</p>	<p>・身近なところからボランティアを始めてみるのが大切。</p>	<p>・積極的に班の話合いに参加しているか。</p> <p>・自分の長所を見つめ、それを活かす方法について考えられているか。</p> <p>・ボランティアは人と接する活動であるということに考えが及んでいるか。</p>
<p>まとめ 5分</p> <p>アンケート 5分</p>	<p><b>展開3</b></p> <p>・自分になにができるかを考えてみよう ⇒まわりの困っている人や、社会のできごと(コロナのこの状況など)に目を向けることで、社会の課題を認識することができる。</p> <p>☆山梨県の中学生の事例 ☆日南市の小学生の事例</p> <p>・ボランティアで得られるもの ⇒アメリカの精神医学の調査によると、人に親切にしたりして「ありがとう」と言われると、こころの健康につながるということがわかった。 ⇒他の学校の人や、地域の人など、いろいろな人とつながりができる。 ⇒学校や家では学べないような知識・技術が身に付けられる。</p> <p>・ボランティアをしてみよう ⇒自分の周りに目を向けて、自分でもできそうなことを考えてみる。(小さなことからでもよい) ⇒インターネットで調べてみる ⇒社会福祉協議会のボランティアセンターに電話などで相談する</p> <p>・参加時の注意点について</p> <p>アンケート記入</p>	<p>・地域にどんなボランティアがあるかをまずは知る。</p> <p>・各市町村には社協、市役所でボランティアを主に担当している部署があることを理解する。</p>	<p>・自分と同世代のボランティア活動を、自分に引き付けて考えているか。</p> <p>・自分なりにできるボランティアについて考えているか。</p> <p>・地域の一員としてのボランティアの大切さを理解しているか。</p> <p>・ボランティアにも「責任がある」ことを理解しているか。</p>

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 ふくしの仕事を知ろう！

2 単元（題材）の目標

福祉関連の仕事についている人の実際の話聞くことで、自分の将来のキャリア設計を考える。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等 社協：紙媒体資料、アンケート

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	<p><b>発問1</b></p> <p>みなさんが知っている「福祉」の仕事についている人を挙げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパー（介護福祉士）</li> <li>・ケアマネジャー</li> <li>・看護師</li> <li>・理学療法士</li> <li>…など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いつくものを自由にあげていけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発表しようとしているか。</li> </ul>
展開 1 30分	<p>テーマ1:実際に「福祉の専門職」についている人のお話を聞こう。</p> <p>①ケアマネジャー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事内容</li> <li>・大変な事</li> <li>・やりがい</li> </ul> <p>②ヘルパー（介護福祉士）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事内容</li> <li>・大変な事</li> <li>・やりがい</li> </ul> <p>③社会福祉士</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事内容</li> <li>・大変な事</li> <li>・やりがい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①～③までそれぞれ、質問なども受け付ける。</li> <li>・③社会福祉士に関しては地域福祉係、相談支援係など所属する係によって内容が違ってくることに留意する。</li> <li>・子どもが興味を持てるような事例やエピソードを交えながら「大変なこと」「やりがい」について話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの福祉専門職の話に興味・関心を持っているか。</li> </ul>
まとめ 5分	<p>テーマ2:福祉の専門職は「自立」を支える仕事</p> <p>「自立」という言葉のイメージは？</p> <p>予想される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分一人で生活すること</li> <li>・だれの助けも必要ないこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の自立は「本人が本人の意思で生活すること」「障がいや病気、年齢などに左右されず、社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の「自立」を理解し、福祉の専門職について理解を深めているか。</li> </ul>

5分	<p>・すべて自分でできること</p> <p>アンケート記入</p>	<p>会で自分らしく生きること」</p> <p>例：『こんな夜更けにバナナかよ』</p> <p>首から下が動かない状態でも、「自分の意思」で一人暮らしを実行し、必要な支援を求めている鹿野さんは福祉的に見て「自立」している。</p> <p>・福祉の専門職は「自立」を実現するために、制度やサービスを紹介したり、提供する仕事。</p>	
----	------------------------------------	---	--

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 総合福祉会館見学（60分）

2 単元（題材）の目標

身近な地域の福祉施設として、総合福祉会館を見学し、福祉会館の概要や利用者、仕事内容について学び、また、地域の場所や人との関わりを広げる。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：質問回答、アンケート 学校準備：探検バッグ、質問内容

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	・職員挨拶		
展開1 見学 30分	・各部屋について説明を行いながら施設内を見学する。 ①ホール ②健康コーナー ③木曾・飛騨の湯 ④あじさいの間 ⑤ボランティアセンター ⑥スタジオ ⑦サンサンルーム(サンサンルームの職員からの説明)	・小学校低学年が聞いてもわかりやすいように、説明を工夫する。	・職員の説明を積極的に聞き、福祉会館について理解しようとしているか。
展開2 体験 15分	・総合福祉会館の建物、仕事の内容について、質疑応答を行う。(質問内容と回答については事前に確認しておく) 質問例： 「何年に建てられましたか。」 ⇒平成6年4月1日オープン(忍たま乱太郎のアニメがテレビ放送し始めたころ) 「毎日何人が利用しますか」 ⇒1日350人。年間約10万人。 「なぜつくられたのですか」 高齢者の方などが来て、楽しみながら友達作りができるような場所が欲しいという市民の方の希望があったため。	・質疑応答に関して、質問内容を事前に担当の先生に確認しておく。 ・事前確認した質問以外の質問があった場合も臨機応変に対応する。	・質問を積極的に行い、福祉会館について知ろうとしているか。
まとめ 5分	・アンケート記入		

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がい理解（小学校4～6年生）

2 単元（題材）の目標

障がいによる「できないこと」に焦点を当てるのではなく、障がいのある人の長所や強みにアプローチして「できること」を大切にする視点を持ち、障がいがあっても自分らしい生き方ができるということを理解する。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等…社協準備：PC、アンケート 学校準備：スクリーン、プロジェクター

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの基本的な捉え方について考える</li> <li>・障がいてどんなことだと思いますか？ （生徒からの返答予想）</li> <li>・「目が見えない人」</li> <li>・「車いすに乗っている人」</li> <li>・「手話とか点字を使っている人」</li> <li>・「身体のどこかが悪い人」 （まとめ）</li> <li>・障がいとは「生きていく上での困り感」のこと</li> <li>・困り感は、誰もが抱えるものであり、特別なものではない。</li> <li>・障がい者は、目が見えなかったり、足が使えなかったりすることで、やりたいことができなかったり、グループに参加することができないといった「困り感」を抱えることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「障がい」は誰にとっても起こりうる身近な問題であることを捉えさせる。</li> <li>・「障がい」を他人ごとではなく自分ごととして考えるよう促す。</li> <li>・障がいそのものの特性が理解できなくても、障がいの人が抱えている「困り感」そのものに共感することはできるということを強調する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの捉え方について理解しようとしているか。</li> </ul>
展開1 ワーク 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレングスについて知る。</li> <li>…人の長所や強み（個人の能力だけでなく、人間関係や環境も含む）をストレングスという。</li> <li>…ストレングスは障がいのある人も、どんな人も皆持っている。</li> <li>・グループワーク（ワークシート使用）</li> <li>映像を見て、映像に出てくる視覚障がいのある人のストレングスについて考える。</li> <li>映像① 視覚障がい者の日常 ～料理編～</li> <li>…映像の中で気づいたことや考えたことについて共有する （生徒が気づくと予想される点）</li> <li>・視覚に障がいがあるため、聴覚や触覚など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人のストレングスを活かす視点が持てるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークに積極的に参加しようとしているか</li> <li>・障がいによるできないことではなく、障がいがあってもできることに注目して理解しようとしているか。</li> <li>・映像に出てくる視覚障がいのある方のストレングスについて積極的に理解しようとしているか。</li> </ul>

<p>まとめ 5分</p>	<p>別の感覚で補って料理をしていたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいがあっても日常生活動作が自立して行える人がいること</li> </ul> <p>…ストレングスを捉える。 (生徒からの回答予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「料理ができる」</li> <li>・「聴覚や触覚などで補える」</li> </ul> <p>映像② 濱田祐太郎の漫談</p> <p>…漫談の中で、気付いたことや考えたことについて共有する。 (生徒が気づくと予想される点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「手話」→視覚障がいの方のコミュニケーションとは？</li> <li>・「野球を見に行く」→スポーツの楽しみ方は？</li> <li>・「ダーツ」→視覚障がいの人でも楽しめるゲームは？</li> <li>・「車の運転」→移動はどうしている？</li> </ul> <p>…ストレングスを捉える。 (生徒からの回答予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話が面白い」</li> <li>・「滑舌がよくて聞きやすい」</li> <li>・「いろんな人と話をしている」</li> </ul> <p>③自分や友達、家族のストレングスについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある方を「かわいそう」と思うのは、「できないこと」に注目しているからである。しかし、障がいはその人を作る一部分でしかない。だからこそ、その人の「できること」に注目していくことで、その人を個人として尊重することができる視点が生まれることをまとめとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の講座を通し、障がいのある人のストレングスについて自分なりの考察が持てているか。</li> </ul>
-------------------	--	--	---

# 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がい理解（中学校1～3年生）

2 単元（題材）の目標

「障がい」を個人の問題としてではなく、環境との関係で捉えること、障がい者の持つ「困難」が、本人を取り巻く「環境」によって生じていることを学び、障がいのある人に対して、自分たちにどのような手助けができるかを考える。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等…社協準備：PC、ワークシート、アンケート

学校準備：スクリーン、プロジェクター

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの基本的な捉え方について考える</li> <li>・障がいてどんなことだと思いますか？ （生徒からの返答予想）</li> <li>・「目が見えない人」</li> <li>・「車いすに乗っている人」</li> <li>・「手話とか点字を使っている人」</li> <li>・「身体のどこかが悪い人」 （まとめ）</li> <li>・障がいとは「生きていく上での困り感」のこと</li> <li>・困り感は、誰もが抱えるものであり、特別なものではない。</li> <li>・障がい者は、目が見えなかったり、足が使えなかったりすることで、やりたいことができなったり、グループに参加することができないといった「困り感」を抱えることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「障がい」は誰にとっても起こりうる身近な問題であることを捉えさせる。</li> <li>・「障がい」を他人ごとではなく自分ごととして考えるよう促す。</li> <li>・障がいそのものの特性が理解できなくても、障がいの人を抱えている「困り感」に共感することはできるということを強調する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの捉え方について理解しようとしているか。</li> </ul>
展開1 ワーク 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい特性と環境の関係性について理解する。</li> <li>・グループワーク（1グループ4～6人）</li> <li>①障がいのある人をイメージしたイラストを見て、その人がどんな時に困るかを考える。</li> <li>②困り感をなくすためには、環境がどのように変化すればよいかを考える。</li> <li>パターン1 車いすに乗っている人</li> <li>・困り感…「段差」や「高い所のボタンを押すとき」など</li> <li>・環境の変化…「スロープ」や「低い所にも同じボタンがあること」、ま</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート（別紙1）を使用する。</li> <li>・同じ障がいを持っていても、困り感は人によって異なるため、手助けには対話が必要であることを強調する。</li> <li>・その本人が困っていることに視点を向け、手助けすることが大切であることを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習に積極的に参加しようとしているか</li> <li>・障がいそのものではなく、環境に目を向け、困り感を解決する視点を理解しようとしているか。</li> <li>・グループでの話し合いに積極的に参加しようとしているか。</li> </ul>



<p>まとめ 5分</p>	<p>た「助けてくれる人」など</p> <p>パターン2 視覚障がいのある人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困り感…「情報の欠如」や「道路上の障害物」、「車の注意」など</li> <li>・環境の変化…「ガイドヘルパーがいること」、「点字ブロック」や「障害物の移動」など</li> </ul> <p>パターン3 聴覚障がいのある人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困り感…「言葉によるコミュニケーションが上手くとれない」、「支援を得られにくい」、「偏見・差別の対象になりやすい」</li> <li>・環境の変化…「手話の普及」、「文字による表示」、「ヘルプマーク」など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業のまとめをする。</li> <li>・アンケート記入</li> </ul>	<p>伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がいにおいては、情報の欠如が一番の困り感になりやすいことを強調する。</li> <li>・目の見えない障がいには、聴覚障がい以外にも、内部障がいや精神障がいなどさまざまであり、それぞれにあった理解と配慮が必要であることを伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人も、全て支援を必要としているわけではなく、自分ができることは、自分でできるようにすることが大切。コミュニケーションをとり、支援が必要なところだけ支援をする姿勢が大切であることをまとめとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の講座を通し、障がいの捉え方、障がい者との接し方について自分なりの考察が持てているか。</li> </ul>
-------------------	---	--	--

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がいを感じて知ろう！～発達障がいを理解する～

2 単元（題材）の目標

発達障がいとはどんなことなのかを知ってもらい、みんなに考えてもらう。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等 社協：PC、あび隊小道具（女王衣装・ティアラ・ハンドベル・用紙等）  
アンケート

学校：プロジェクター、スクリーン

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 2分	はじまりの挨拶、自己紹介		
体験 15分	「あび王国のお誘い」 「あび」という言葉でしか会話が出来ない架空の国を想定して、発達障がい者のコミュニケーションの困難さを疑似体験し、相手を思いやる心の大切さを考える。 (広島県手をつなぐ育成会研修会資料) 1. 「あび」という言葉だけで会話する体験 2. ジェスチャーを入れて会話する体験	「ことばが伝わらない」ことを疑似体験する。 「障がいがあるから自分とは違う」と壁を作るのではなく、疑似体験することで、当事者の気持ちになって考えることができる。	体験を意欲的に取り組んでいるか  障害を正しく理解してもらい、自分なりの考察ができていのかどうか。
説明 10分	・発達障がいの説明 ・発達障がいのある小学生の子が作った発達障がいに関する説明を引用しながら、発達障害についてパワーポイントで説明する。 ヘルプマークの説明	日常的な体験談やエピソードを交えて説明する。	障害のある人を特別視するのではなく、ともに生きる仲間としてまちづくりがおこなわれていることを理解することができるか。
ワーク 10分	街の工夫について学ぶ ・美濃加茂市の地図や写真、資料などを使って、高齢や障がいのある人のためのどのような工夫があるのかをワークを通して考える。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインについて学ぶ。	バリアフリーとユニバーサルデザインについての説明をする。	自分で思ったこと・感じたことを振り返る事ができるかどうか。
まとめ 8分	感想・アンケート		

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 障がいのある方との交流

2 単元（題材）の目標

障がいのある方と、簡単なレクリエーションを楽しむことで、同じ目線で物事を楽しむことができること、コミュニケーションの取り方を学ぶ。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等…社協準備：アンケート 学校準備：玉入れの玉・カゴ

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・「ひまわりの家」について</li> <li>・利用者及び職員から簡単な自己紹介</li> <li>・ラジオ体操</li> </ul>		
展開1 体験 35分	<p>障がいのある方とのレクリエーションを通して、コミュニケーションを取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・玉入れ</li> </ul> <p>小学生と障がいのある方を混合した2チームで行う。</p> <p>説明 5分 一回目 15分 二回目 15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状態や立場が違って、一人の人として相手を見る姿勢を学ぶ。</li> <li>・ひまわりの家職員に、各利用者のヘルプについてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験に積極的に参加しようとしているか</li> <li>・相手を尊重する姿勢について理解しようとしているか。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス管理責任者 からコメント</li> <li>・アンケート記入</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を通し、障がい者との接し方について自分なりの考察が持てているか。</li> </ul>

# 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 パラスポーツ体験 ～ボッチャボール・ペガーボール～

2 単元（題材）の目標

障がいのある方でも楽しめるスポーツを通して、ふくしの基本的な考え方について学ぶ。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等…社協準備：ボッチャボールセット、ペガーボールセット、PC、アンケート  
巻き尺（2）、コーン、養生テープ

学校準備：スクリーン、プロジェクター

(2) 本時の展開（2時限分）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉＝『ふだんの 暮らしの しあわせ』 みんなが当たり前な暮らしを当たり前に行えるようにするということ。</li> <li>・例えば、「足が不自由な人」はスポーツを楽しむことができない？ ⇒ 足が不自由な人でも楽しめるスポーツを「創る」ことができる。</li> <li>・だれでも当たり前暮らしできるように少しずつ社会をよくしていくこと</li> <li>・パラスポーツについて知る。 パラプレギア(下半身麻痺者)とオリンピックの造語 日本人が発案した語呂合わせ 参加者が増えるにつれ、パラレル(平行)の意味が追加された。</li> <li>・ボッチャボールとペガーボールを体験する。</li> <li>・それぞれについてルール説明後、1チーム3～4人のチームに分かれ、各チームごと順番に障がい者スポーツを体験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツを体験する意図を伝える。</li> <li>・ボールは、手で投げることが出来る人は上から投げても下から投げてもよく、投げられない人は足や、ランプと呼ばれる勾配具などを使うことで、身体に少しでも動かせる部分があれば、投球が可能となっている。また、選手をサポートするアシスタントという</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にイメージを言葉にしようとしているか。</li> <li>・パラスポーツについて興味・関心を持っているか。</li> <li>・説明を積極的に理解しようとしているか。</li> </ul>
展開1 体験 50分	<p>ボッチャボール ルール説明（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度の身体障がい者から健常者まで楽しめるスポーツ</li> <li>① 1チーム3～4名で、先攻、後攻を決める。</li> </ul>		
(説明) 20分	<p>先攻チームの代表が決められたコートの中にジャックボール（白）を投げる。</p>		
(体験) 30分	<p>②先攻チームの1番手が赤いボールをコートの中に投げて、ジャックボールに近づける。</p>		

<p>まとめ 10分</p>	<p>③後攻チームの2番手が青いボールをコートの中に投げて、ジャックボールに近づける。 ④以下、先攻・後攻両チームがボールを投げる。全員投げたらエンド終了。エンド終了後、ジャックボールに一番近いボールを投げたチームが勝ち。</p> <p>ペガーボール ルール説明 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害児の子供たちの運動量を高めるために創られたスポーツ。今では「障害のある人もない人も一緒に楽しめるニュースポーツ」として広がりを見せている。</li> <li>・知的障害のある人は、複雑なルールを理解したり、器用な動きをするのが不得手。かんたんで、わかりやすく、参加しやすいスポーツとして生まれた。</li> </ul> <p>①1チーム3～4名で、先攻、後攻を決める。 ②後攻チームの中から、1名ペガー（ポンチョを着た鬼役）を選出する。 ③先攻チームはスタート時、ボールを1人5個保有。ペガーを追いかけながらポンチョにボールを投げ、接着させる。時間内（今回は20秒）にどれだけ得点できたかを競う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4チームずつに分かれ、ポッチャ2チームずつ、ペガーボール1チームずつ、休憩1チームずつで、それぞれ回転し、順番に体験を行う。</li> </ul> <p>30分中（①体験6分、②休憩2分、③体験6分、④休憩2分、⑤体験6分、⑥休憩2分、⑦体験6分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画鑑賞（5分）</li> <li>・アンケート記入</li> </ul>	<p>役割の人もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな障がいを持った人でも、参加することができるスポーツであることを強調する。</li> <li>・ルールを自由に決めやすいのもペガーボールの特徴。遊ぶ人に合わせて自分でルールを考えることができる。</li> <li>・時間管理をこまめに行う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健全者と障がい者が互いを知ることで共生の第一歩になること、障がいにとらわれず皆が同じ目線でものを見てわかり合える、そこから理解が生まれていく力がスポーツにあることをまとめとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験に積極的に参加しようとしているか。</li> <li>・体験の意図を理解し、パラスポーツの楽しさを理解しようとしているか。</li> <li>・グループでのコミュニケーションを取りながら積極的に参加しようとしているか。</li> <li>・体験を通し、パラスポーツについて、自分なりの考察が持てているか。</li> </ul>
--------------------	--	--	---

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ） 第 限  
場 所：  
人 数：

1 単元（題材）名 障がい者スポーツ体験 ～ゴールボール～

2 単元（題材）の目標

障がいのある方でも楽しめるスポーツを通して、ノーマライゼーションの観点について学ぶ。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等…社協準備：ゴールボール、アイマスク、白杖、PC

学校準備：スクリーン、プロジェクター、コーン

(2) 本時の展開（2時限分）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がいについて知る。</li> <li>…一口に視覚障がいといっても、人それぞれで色々な違いがある。</li> <li>(例)</li> <li>・生まれつき目が見えない人</li> <li>・事故や病気によって目が見えなくなった人</li> <li>・目がまったく見えない人</li> <li>・見えがよくない人(光や色は感じられる人など)</li> <li>…何をどこまでサポートするかはその人その人の障がいによって変わってくる。</li> <li>・視覚障がい者の方は、視覚情報が手に入らないため、情報弱者となり易い。支援する上では、正確な情報を伝え、周りの情報も細かく伝えていく</li> <li>・「こっち」、「あっち」などの指示語は使わないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは、視覚障がいには全盲の人だけに限らないということを強調する。</li> <li>・障がいのある方を個人として捉え、ステレオタイプにならない支援を行うことの大切さを伝える。</li> <li>・「障がい」は誰にとっても起こりうる身近な問題であることを捉えさせる。</li> <li>・「障がい」を他人ごとではなく自分ごととして考えるよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がいについて理解しようとしているか。</li> </ul>
展開1 映像 15分	<p>映像を見て、視覚障がい者の生活について考える。</p> <p>映像① 視覚障がい者の日常 ～料理編～</p> <p>…映像の中で気づいたことや考えたことについて共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚に障がいがあるため、聴覚や触覚など別の感覚で補って料理をしていたこと</li> <li>・障がいがあっても日常生活動作が自立して行える人がいること</li> </ul> <p>映像② 濱田祐太郎の漫談</p> <p>…漫談の中で、気付いたことや考えたことについて共有する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を見て、積極的に気づきや考えをまとめているか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手話」→視覚障がいの方のコミュニケーションとは？</li> <li>・「野球を見に行く」→スポーツの楽しみ方は？</li> <li>・「ダーツ」→視覚障がいの方でも楽しめるゲームは？</li> <li>・「車の運転」→移動はどうしている？</li> </ul>		
展開 2 説明 15分	<p>ゴールボール ルール説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もともとはケガなどで視力を失った患者へのリハビリとして始められた競技。</li> <li>① 1チーム3名で、先攻、後攻を決める。</li> <li>②先攻チームからボールを投げ、時間内（今回は3分）にどれだけ得点できたかを競う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者スポーツを体験する意図を伝える。</li> <li>・ゴールボールは、視覚で味方や相手を確認できないため、声を出してコミュニケーションをとることが大事なスポーツであることを伝える。</li> <li>・ゴールボールをするときは、音が大切な情報源になるので、見学する人は私語や雑音が出ないようにすることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者スポーツについて興味・関心を持っているか。</li> <li>・説明を積極的に理解しようとしているか。</li> </ul>
休憩	10分休憩		
展開 3 体験 45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールボールを体験する。</li> <li>・それぞれについてルール説明後、1チーム3人のチームに分かれ、各チームごと順番に障がい者スポーツを体験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健常者と障がい者が互いを知ること、共生の第一歩になること、障がいにとらわれず皆が同じ目線でものを見てわかり合える、そこから理解が生まれていく力がスポーツにあることをまとめとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験に積極的に参加しようとしているか。</li> <li>・体験の意図を理解し、障がい者スポーツの楽しさを理解しようとしているか。</li> <li>・グループでのコミュニケーションを取りながら積極的に参加しようとしているか。</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート記入</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を通し、障がい者スポーツについて、自分なりの考察が持てているか。</li> </ul>

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 高齢者とのコミュニケーション・高齢者理解

2 単元（題材）の目標

高齢者への「言葉かけ」を通して、年齢を重ねても人として尊重されることの大切さを学ぶ。  
日常生活に起こりうる場面を表現した寸劇を通して、「相手を尊重する姿勢」を学ぶ。

3 本時の学習

（1）準備・資料等…社協準備：アンケート、PC、A4 用紙、寸劇準備

学校準備：プロジェクター、スクリーン

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で「高齢者」は何歳から？…65歳（前期高齢者）、75歳（後期高齢者）</li> <li>・美濃加茂市の高齢者人口</li> <li>・高齢者の身体の変化… 関節が動きにくくなる、目が見えにくくなる、耳が遠くなる、病気にかかりやすくなるなど</li> <li>・介護が必要となる原因と、介護が必要となった高齢者を支える方法について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の基本的な現状を伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の基本的な現状について興味・関心を持っているか。</li> </ul>
展開1 演習 15分	<p>高齢者とのコミュニケーション、「優しい」声かけを考える。</p> <p>① 以下の設定に従った寸劇を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動販売機の前で、飲み物を買おうとしているおばあさんと、その後ろに立つ中学生</li> <li>・おばあさんは、財布からお金を取り出したり、自動販売機にお金を入れたり、目当ての飲み物を買うことが上手くできず、時間がかかっている</li> <li>・しびれを切らした中学生が別の自動販売機に向かおうとする</li> <li>・おばあさんが小銭を落としたため、声をかけるが、返事がない。中学生は見て見ぬふりをして行ってしまふ</li> </ul> <p>② 寸劇の中のコミュニケーションで、どこに問題があったか、周りの人と話し合う</p> <p>③ 発表された意見をもとにした寸劇を、生徒を交えて行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔で目を見ながらコミュニケーションをとる。</li> <li>・用件だけを伝えるのではなく、簡潔にわかりやすく話す。</li> <li>・「声のトーン」、「しゃべる速さ」、「声掛けの内容」について声掛けのポイントを具体的に考えるように示す。</li> <li>・相手が障がい者であれば、高齢者であれ「コミュニケーション」を取るという事が大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寸劇の内容に関心を持っているか。</li> <li>・寸劇の意図を理解し、高齢者への接し方を理解しようとしているか。</li> <li>・相手を尊重する姿勢について理解しようとしているか。</li> </ul>
展開2 演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢になっても、生きがいをもって活躍できることを知る</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いに積極的に参加し</li> </ul>



15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生きがいについて</li> <li>・社会参加をしている人ほど、健康に暮らせていることを知る</li> <li>・一人暮らし高齢者や、高齢者夫婦の世帯が増加しており、さまざまな世代との交流が少なくなっていることを知る。</li> <li>・高齢になっても活躍することができることを学ぶ。</li> <li>・身の回りの、元気な高齢者について、班で話し合い、発表する。</li> </ul>		<p>ようとしているか。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が今元気になれること、大切にしていること、夢中になれることは、何歳になっても変わらず、自分が高齢者になったときも、自分の生きがいに繋がるルーツとなる。</li> <li>・これからも、自分のことを見つめ直しながら、自分が何歳になっても「好き」「楽しい」と思えることを探してみる大切</li> <li>・アンケート記入</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通し、高齢者との接し方について自分なりの考察が持てているか。</li> </ul>

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 訪問介護（ホームヘルパー）って何？

2 単元（題材）の目標

在宅生活をされる高齢者、障がい者はデイサービス、ヘルパーを利用される。「〇〇デイサービス」と書かれた車を実際に目にすることはあっても、「デイサービスって何？」、「ヘルパーって何？」といった疑問が生まれると思われる。在宅生活を送られる方が自分らしく住み慣れた自宅で生活することの理解を伝える。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等 仕事内容のイラストカード、車椅子、片麻痺体験用セット、アンケート

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 3分	訪問介護（ホームヘルパー）って何？ ・予想される回答 知らない。 祖父、祖母の家に来ている。 デイサービスは知ってる。		授業内容に興味・関心をもって聞いているか。
ワーク 7分	ヘルパーの仕事について ・絵を見せて説明をする。 ・絵を見た後にその他、どんなことができるか発表してもらう。 掃除、調理、買い物、入浴介助、更衣介助、身体清拭、体位変換、服薬管理、通院介助、買い物介助、調理、掃除など ・身体介護、家事援助の仕分けをしてもらう。	身体介護、家事援助があるということを知ってもらう。	ヘルパーの仕事について理解しようとしているか。
説明 5分	なぜ訪問するのか ・わかる範囲で発表してもらう。 発表後、訪問の理由の説明をする。 疾病による麻痺、寝たきり、障がい者、また加齢による身体の衰え	訪問する理由の理解	訪問の必要性について学ぼうとしているか。
説明 10分	できない部分の支援をするということの説明 ・できることは自分でやってもらう。 ヘルパーのできないことの説明 ・大掃除的なこと、同居の場合、家族と共有部分は掃除をしない。 ⇒残存機能を奪わないことの理解	残存機能を奪わないことを理解してもらう。	できることを自分でやってもらうことの大切さについて理解できているか。

<p>体験 15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体介護のレクチャー</li> <li>車椅子移乗、片麻痺の方への着替えの介助</li> </ul>		
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴も仕事。</li> <li>1人暮らしの人は話し相手が欲しい。話し相手を待っている。</li> <li>・感想、アンケート</li> </ul>	<p>話を聴くときの姿勢。 (うなずき、否定はしない。)</p>	<p>自分で考えたこと、感じたことを振り返ることができているか。</p>

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限  
 実施者：  
 場 所：

1 単元（題材）名 地域のためにできること～ぼくたち・わたしたちの住むまちを知る～

2 単元（題材）の目標

児童が自分たちの住む地域を知り、地域の中での役割について考える。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等 社協準備：画用紙、ふせん、模造紙、アンケート  
 学校準備：OHP、スクリーン

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
3分	<b>新聞記事を読もう</b> ・小学生が高齢者を助けた記事を紹介する	・高齢者に声をかけたあと、どこに連れていくか、誰に協力を求めるかは、地域を知っていないとできない。	積極的に講師の話を聞こうとしているか
10分	<b>「わたしのまちの〇〇を紹介します！」</b> ・それぞれがまちのいい所、自慢したい、紹介したいところをふせんに書き込む 最初に個人で考え、後にグループで意見を共有する。 ・まちのいい所をふせんに書き込み模造紙に貼りつける	・今までの「まちたんけん」や地域の人の関りから意見を導き出すように促す ・いい所は「場所」「人」「行事」などに広げて考えるように促す	積極的に地図に書き込みをしているか クラスメイトの発表に興味を持ち、聞いているか 積極的に発表に参加しているか
10分 ～ 20分	<b>「みんなの知らない地域」</b> ・地域で活動する人、団体の紹介 (場合によっては民生委員、福祉委員、ボランティアから活動を紹介)	・地域活動をまとめたPowerPoint、資料などを用意する ・地域の方を呼んで活動紹介を行う際は地域の団体、学校の調整を行う	積極的に講師の話を聞こうとしているか
10分	<b>まとめ「地域のためにできること」</b> ・自分が地域のためにできることをカードに書き込む ・グループ内でお互いの意見を共有 ・時間があれば2～3人に発表してもらおう	・今できなくても「大人になったらできる」ことでも可	

# 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時: 令和 年 月 日 ( ) 第 限  
 実施者:  
 場 所:

- 1 単元（題材）名 地域のためにできること ～生活支援コーディネーターってなあに？～
- 2 単元（題材）の目標  
生活支援とは何かを理解し、地域の中で学生の自分たちができることは何かを考える。
- 3 本時の学習
  - (1) 準備・資料等 ふせん、模造紙、パソコン、プロジェクター、スクリーン
  - (2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
15分	<p><b>「生活支援とはなにか」を知る</b>  <u>発問: 生活の中で「必要なもの」や「大切なこと」          ってなんだろう？</u>          予想される答え          ・健康 ・衣食住 ・勉強 ・友達 ・家族          ・スマホ ・テレビ…等          (講師より説明)          ・生活＝暮らしは様々な要素が関わり合って          成立している          ・生活を成り立たせる要素が、何らかの原因          で無くなってしまうと生活の色々な場面で          不自由が出てくる          ・出来なくなったことをサポートする＝生活          支援</p>	<p>専門用語を使用せず、          生徒が想像しやすい説          明を行う</p>	<p>積極的に講師の話を          聞こうとしているか           積極的に意見を発表          しようとしているか</p>
2分	生活支援コーディネーターについて説明		
2分	<p><b>「2人の困りごとを通して生活支援を考える」</b>          Aさん…ひとり暮らし 男性 70代          昨年奥さんを亡くした          子どもと孫は県外に住んでいる          散歩が好きで、朝と夕方家の周りを歩い          ている          誰ともしゃべらない日があり、さみしさを          感じるが多い。このままでは認知症に          なってしまうかと不安</p>	<p>難しく考えなくていい          ことを伝える          今の自分にできること          を考えるようアドバイ          ス           地域には気が付かない          だけで、認知症をはじ          めとした病気で苦労し          ていたり、人とのつな          がりがなくて悩んでい          る人など、色々な事情          を抱えた人がいるとい          うことを理解できるよ          うに言葉がけをする。</p>	<p>与えられた情報を考          察し、自分の意見をま          とめようとしている          か          積極的に自分の意見          を発表しようとして          いるか          ※発問後、時間を取る</p>
5分	<p>発問:  <u>Aさんに対してどんなサポートが考えられます          か？(グループワーク)</u>          予想される答え          ・会ったらあいさつをしてみよう</p>		

3分	<p>・登下校の途中で話しかけてみる ・一人暮らしのお宅へ訪問してみたら？</p> <p><b>事例提示:</b> 東京都江戸川区…ジュニア訪問員活動。中学生がグループで高齢者宅を訪問 美濃加茂市…小学校で認知症行方不明者探索訓練に参加</p>	<p>高齢者にとって生活に変化があることは認知症予防にも大切であることを伝える</p> <p>全国各地で中学生や高校生、小学生ができる範囲で地域の高齢者の生活を支えている事例を紹介する</p>	
2分	<p>Bさん…ひとり暮らし 女性 80代 身の回りのことはなんとかできるけど、足腰に痛みがあつて、重いものを持って歩くのは大変。 ゴミ出しができなくなってきた…</p>		<p>与えられた情報を考察し、自分の意見をまとめようとしているか 積極的に自分の意見を発表しようとしているか ※発問後、時間を取る</p>
5分	<p>発問: <u>Bさんに対してどんなサポートが考えられますか？(グループワーク)</u> 予想される答え: ・かわりにゴミ出しをしてあげるよ ・大人に Aさんが困っていることを伝えればなんとかしてくれるんじゃないかな。</p>		
3分	<p><b>事例提示:</b> ・熊本県水俣市…分別が細かく、高齢者には難しい。ゴミの集積所で中学生と一緒にゴミの分別を手伝う。 ・北海道札幌市、新潟県新潟市…高校生、中学生、小学生が高齢者の家のゴミを登校途中に集積所までもっていつている。</p>		
10分	<p>「学生だからできる地域貢献活動について考える」 <u>発問:みなさんがだったら地域で、どんな活動ができそうですか？どんな活動をしてみたいですか？(グループワーク)</u> 予想される答え ・地域のゴミ拾いなど清掃活動 ・施設への訪問 ・あいさつ、声掛け ・ゴミ捨て ・ペットボトルのキャップを集めるなど ・夏ボラに参加する ・わからないから、とりあえず調べてみる</p>	<p>まずは気軽にできるあいさつから始めるといい。地域活動やボランティア活動において「これならできそう」と感じることから取り組むことが長続きする</p> <p>学生の自分の「強み」から考える ・長期休みがある ・元気がある ・学校のみinnで協力し合える ・先生の協力が得られる …など</p>	<p>自分にできそうな活動について考えているか。 積極的に自分の意見を発表しようとしているか</p>
3分	<p><b>まとめ</b> まずは地域の人へあいさつや声掛けをすること、積極的に地域行事へ参加することが大切</p>		

# 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「貧困」について考える

2 単元（題材）の目標

「貧困＝経済的に苦しいこと」ではなく「人とのつながりが希薄」であること、「困ったときに手を差し伸べてもらえる存在がない（少ない）」ことの意味から、自分や他人を大切にすることの重要性を伝える

3 本時の学習

(1) 準備・資料等…社協準備：PC、アンケート 学校準備：スクリーン、プロジェクター

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	発問「貧困についてどんなイメージがありますか」 ・貧困を感じる瞬間のイメージについて意見交換を行う <b>回答予測</b> ・お金がないこと ・必要なものが足りていないこと ・お金がなくて困っていること	・貧困のイメージについて、「お金がない」だけではなく、「つながりの希薄化」＝「社会的孤立（孤独感）」が意欲や自信を喪失する原因になるという視点を持つよう促す。	・貧困のイメージについて、積極的に意見交換を行っているか。
展開1 講義 10分	・貧困の実態について解説する ・「絶対的貧困」と「相対的貧困」について ・「見えにくい貧困」について ・「生活保護法」、「生活困窮者自立支援法」について	・貧困について、資料を用いながらわかりやすく説明する。	・説明を聞き、貧困の実態について理解しようとしているか。
展開2 演習 20分	・他人や社会と「つながり」を持つ事について学ぶ ・「つながり」は貧困を解消するために非常に重要である。 <b>ワーク</b> 「じゃんけん電車」 ・ゲームを通じて、「繋がり」を持つことや「受容」されることを体感的に学ぶ *仲間が増えることの心強さ(安心)を実感する  ・個人のつながりを再確認 ・「つながり」を維持する、もしくは拡大するために心がけることについて意見交換を行う	・ワークの前後に、ワークを通じて何を学ぶかを明確にして、ワークに取り組みせる。 ・「貧困＝お金がない」ではなく「孤独・孤立・ひとりぼっち」であることの意味	・ワークに積極的に参加しようとしているか。
まとめ 5分	・明日から「心がけること」・「大事にしたいこと」をグループで共有し、発表する。 ・アンケート記入		

## 〇〇小学校・中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限

実施者：

場 所：

1 単元（題材）名 「自分の権利～相手の背景～」

2 単元（題材）の目標

子どもの「権利」から、自分はこんなことをしてもいい、言ってもいいということを知り、社会から守られているという視点から安心して生活が送っていけるということを理解する。また他者にも同様にその権利がある事を知る事が、共存していくために必要なことであると理解する。

3 本時の学習

(1) 準備・資料等…社協準備：資料、アンケート

学校準備：なし

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの権利について</li> <li>・発問「子どもの権利って、どんなものだと思いますか？」</li> <li>・権利とは、「してもいいこと」。権利は生まれたときから皆にある。</li> <li>・子どもの権利に関する資料を読み、思い浮かんだ考えをワークシートに記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いついた考えを自由に記述させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に自分の考えをワークシートに記入しているか。</li> </ul>
展開1 演習 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の背景について</li> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワーク</span>「桃太郎と鬼」</li> <li>①ワークシートに従い、桃太郎と鬼どちらが正しいと思うかを発問し、意見を聞く。</li> <li>②ワークシートのイラストのセリフを考え、記入してもらおう。</li> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">予想される意見</span></li> <li>・鬼は酷いやつで、村人が困っている。</li> <li>・悪い事をしたから、退治しないとイケない。</li> <li>③以下の仮定の情報を提示する。</li> <li>・実は鬼はまだ子どもで、母子家庭。</li> <li>・家が火事に遭い、テレビも布団もない。</li> <li>・母が病気で仕事ができずに、貧乏で借金あり。</li> <li>・下の兄弟はまだ保育園児で、食べる物も無い。</li> <li>・鬼は下の兄弟の面倒をみており学校に行けない。</li> <li>・母に宝奪うよう怒鳴られた。怖い顔して行くように言われた。</li> <li>④仮定を踏まえて、グループで意見をまとめてワークシートを記入する。</li> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まとめ</span></li> <li>・①と②の時と④での意見の違いがあるか、変わっ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①と②についてはクラス全体に対して、挙手制にて回答をお願いする。</li> <li>・④はグループの代表者に答えてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にワークに参加しようとしているか。</li> <li>・自分の意見を発表し、全体に共有できているか。</li> </ul>



<p>展開 2 演習 15 分</p>	<p>た事があるか答えてもらう。 ・意見を言う事の大切さを理解してもらう。</p> <p>・意見表明権について ワーク「悪い子と決めつけている」 ①事例を読んで、どう思ったかをワークシートに記入する。 ②グループで話し合い、まとめた意見を発表して全体で共有する。 予想される意見 ・ぼくのことを聞いてくれない ・先生が話を聞いてくれないなら親や他の先生にも相談してみる ・デブなのにご飯ゆっくり食べておかしい ・言われても、先に手を出したらいけない</p> <p>まとめ ・自分の意見をはっきり言える権利がある ・意見を伝えることで、周りに自分の困っている事や気持ちを伝えることができる ・周りの他の先生や親、友達、気軽に相談できる場所に相談してみる</p>	<p>・今まで発言していない人、発言しなそうな子から積極的に意見を聞く。 ・正解は無いこと、自分の意見で思ったことを共有することが大切であることを伝える。</p>	<p>・自分の意見をしっかりとグループで共有できているか。 ・自分の意見を伝えること、相談することの大切さが理解できているか。</p>
<p>まとめ 10 分</p>	<p>・意見を言う事で、自分も周りの人も考えや言動が変化していく ・話し合っ解決していく事で、表面上だけでなく、相手の事を深く理解していく事ができ、対人関係が良好になっていく事を知ってもらう ・子どもの権利条約について資料を読む ・困った時の相談先について紹介する ・アンケート記入</p>		

## 〇〇中学校第〇学年 福祉出前講座

日 時：令和 年 月 日（ ）第 限  
 実施者：  
 場 所：

### 1 単元（題材）名 ダイバーシティ 価値観の多様性について学ぶ

#### 2 単元（題材）の目標

様々な価値観が混在する現代社会において、お互いの価値観の差異を認め合うことで地域の人々が住みやすく共に生きる社会を作ることには地域福祉を考える上で重要なことである。

近年、日本の一般企業において「ダイバーシティマネジメント」という言葉が注目されている。ダイバーシティとは「多様性」のことであり、企業経営の中で多様な人材、多様な価値観をもったスタッフが個性を生かして生産性を高めていくダイバーシティマネジメントという考え方が徐々に広まってきている。働き方をめぐる様々な問題、固定観念にとらわれない仕事のしかたが増えているなど、これからの社会がますます複雑にかつ多様な価値観が存在していく中で、子どもたちが個々の力を発揮し、お互いの価値観を認め合い尊重しあうことが求められていると考えられる。

本授業では、国籍、年齢、性別、障がいの有無など、多様な人々が生きる社会でこれからのを過ごしていく子どもたちに対して、多様性についての理解を共有し、地域の中で様々な価値観を持った人たちとともに生きる社会を作ることを目指す。

#### 3 本時の学習

##### (1) 準備・資料等

社協準備：PC、アンケート 学校準備：プロジェクター、スクリーン  
 映像資料「バラバラルルル／井上涼」YouTube より  
<https://www.youtube.com/watch?v=Tnjxpa8I6ZY>

##### (2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価（観点、方法等）
導入 10分	<p>◆講師自己紹介 「美濃加茂市社会福祉協議会から来ました。●●です。」簡単に挨拶と自己紹介</p> <p>◆「ダイバーシティ」の言葉を板書 皆さんはこの言葉を知っていますか？ 「多様性」という意味(板書) 「多様性」ってなんだろう？ 年齢や性別はみんな同じようなものだけど、入っている部活、好きなもの、好きなこと、ものごとの考え方、みんなにもいろんな個性がある。 多様性とはいろいろな種類のものがあることを指している。</p> <p>多様性を認め合うってどういうことだろう？</p> <p>◆映像「バラバラルルル」鑑賞(5分) (板書) 県立ナラナラ高校コーラス部のメンバー</p>	<p>知っている人举手してもらう</p>	<p>・多様性という言葉について理解しようとしているか。</p>

<p>展開① 20分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公</li> <li>・初心者 後藤 (帰りたい・ソロパート歌いたい)</li> <li>・忍者の末裔 しのぶ (忍者の掟があるので小声でしか歌えない)</li> <li>・イタコのいっちゃん (遣隋使と遣唐使を憑依させるために精神統一必要・後藤のソロパート反対)</li> <li>・鹿 (角かゆい)</li> </ul> <p>それぞれがそれぞれの考え方を主張している →お互いの価値観、多様性を認め合い、コンクールの日を迎えることができた</p> <p>最後のセリフ板書 「ぼくたちはバラバラでした きっとこれからもバラバラでしょう でも！！・・・」 ・・・この後にどんなセリフが続くと思いますか？</p> <p>◆わかりあえない、けどわかりあおうとすることが大切であること伝える。</p> <p>◆実際に社会的に少数派だったり、ハンデを抱えている人たちが社会の中で活躍している事例</p>	<p>個性的過ぎるコーラス部のメンバーそれぞれの価値観や思いについて説明興味引くように面白い感じ</p> <p>映像作者 井上涼さん →セクシャルマイノリティ公言している。</p> <p>隣の人と話し合ってもらい意見を発表する 「これからもみんなで歌いたい」「コンクールの優勝めざしたい」など</p>	<p>・映像から多様性について積極的に学ぼうとしているか。</p> <p>・自分なりの意見をもっているか。</p>
<p>展開② 10分</p>	<p>ひきこもり当事者やニート・フリーターだった人たちが活躍している会社がある 「ひきこもり・ニート・フリーター」ってどういうイメージ？ 「株式会社デジタルハーツ」事例あげる バグを見つけるの得意。</p> <p>◆私たちが仕事をしている社会福祉協議会というところは、地域共生社会(板書)を作ることを目指しています。美濃加茂市に住んでいる皆さんが多様性をお互いに認め合い、助け合ってより良い、住みやすいまちづくりを目指している。 ◆生活困窮者自立支援事業の中の就労準備支援事業の事例→障がいをもった人たちやひきこもり当事者への支援を行っている</p>		
<p>結論 5分</p>	<p>◆どんな人にも個性があり、多様な価値観があり、お互いに認め合うことで、より良い社会を作っていくことができる。 ◆どんなことを感じたか、感想を書いてみよう。</p>		<p>・多様性について理解することができたか。</p>

## 福祉教育 出前講座調整可能な講師等一覧

講座内容	個人・サークル名	連絡先	日程調整について	その他
手話	手話サークル やまびこ	社協(28-6111)	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	聴覚障がい者の調整も可能
手話	手輪の会	社協(28-6111) もしくは、 市役所福祉課	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	聴覚障がい者の調整も可能
点字	岩井 公志	社協(28-6111)	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	点字器貸出可
視覚障がいについて	小嶋 みつえ	社協(28-6111)	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	視覚障がい者
認知症について	市役所高齢福祉課	市役所高齢福祉課(25-2111)	実施日の1ヶ月前までに連絡・調整	認知症サポーター養成講座の実施

※上記以外の講師、講座内容についてもご相談を承ります。お気軽にお問合せ下さい。

※市民の方が講師となる場合は、時間の調整等が必要となります。なるべく早めに日程調整ができるようご配慮下さい。

※講師料・交通費に関しては、各講師とご相談ください。

問合せ先：美濃加茂市社会福祉協議会 地域福祉係 福祉教育担当 TEL：28-6111 FAX：28-6110

## ※その他 副読本・参考図書

### 障がいへの理解

「せなかをとんとん」 作：もがみ いっぺい 絵：はせがわ ともこ

光村図書 こくご 二上 「この本、読もう」 P120~121

しんぺいのおとうさんは、耳が聞こえません。しんぺいは、「おとうさん。」とよびたいのですが――。

「さっちゃんのまほうのて」 作：たばた せいいち

光村図書 こくご 二下 「この本、読もう」 P128~129

さっちゃんの手は、おとうさんやおかあさんと少しちがっています。でも、おとうさんは、「まほうの手だね。」と言います。

「どんなかんじかなあ」 作：中山千夏

光村図書 こくご 三下 「この本、読もう」 P126~127

友だちのまりちゃんは目が見えません。目が見えないってどんな感じかなあ。

「見えなくてもだいじょうぶ？」 作：フランツ＝ヨーゼフ＝ファイニク

光村図書 こくご 四上 「この本、読もう」 P124~125

まいごになったカーラ。けれども、だれも助けてくれません。声をかけてくれたのは、目が不自由なお兄さんでした。

「さわるめいろ」 作：村山純子

光村図書 こくご 四下 「この本、読もう」 P124~125

目の見えない人と見える人が、いっしょに楽しめるように作られた絵本です。線をたどって、めいろを楽しみましょう。

「新ちゃんがないた！」 作：佐藤 州男 絵：長谷川 集平

光村図書 国語 五 「この本、読もう」 P236~239

四肢性まひでうまく歩けず、泣き虫だった新ちゃんは、変わった。どんな意地悪をされても、決して泣かなくなった。

「五感の力でバリアをこえる」 作：成松一郎

光村図書 国語 六 「この本、読もう」 P242~245

だれもが必要な情報を得て、こちよく生活できる。そんな社会をつくるためのヒントが入っている。

「リバウンド」 作：E・ウォルターズ

光村図書 国語（中学）2 「読書案内」 P188~189

人間関係に悩むショーンと車椅子生活のデーヴィッド。

二人の少年の出会いがお互いを変えた。日常に潜む偏見や不便さなど障がい者の抱える問題を照らしながら、真の友情とは何かを問いかける。

「そっと耳を澄ませば」 作：三宮 麻由子

光村図書 国語（中学）2 「読書案内」 P188~189

四歳で失明した筆者。だが、そっと耳を澄ませば、さまざまな感触や音に満ちた世界を全身で感じ取ることができる。ユーモアあふれるエッセイ集。

#### 高齢者理解

「いのちのおはなし」 作：日野原 重明 絵：村上 康成

光村図書 国語 四下 「この本、読もう」 P130~131

生きているとはどういうことでしょう。

九十五さいの日野原先生による、命のじゅぎょうです。

「ヨーンじいちゃん」 作：ペーター＝ヘルトリング

光村図書 国語 六 「この本、読もう」 P242~245

ヨーンじいちゃんは、おしゃれもするし、恋もする。ちょっと変わっているけれど、にくめない。

#### 参考図書

「大好きだよキヨちゃん」 作・絵：藤川幸之助 クリエイツかもがわ かもがわ出版

キヨばあちゃんは脳みそが少しずつ小さくなって、いつかは赤ちゃんになってしまうー。自分にとって大切な人の記憶がうすれて行くとき、一体何ができるのかを問いかけます。

「いのちのまつり～ヌチグスージ～」 作：草場一壽 絵：平安座資尚 サンマーク出版

「ぼうやに命をくれた人は誰ね？」という沖縄のおばあへの問いかけから始まるお話。「命」の大切さ、家族の存在を今一度考えます。

「わたし いややねん」 作：吉村敬子 絵：松下香住 偕成社

手足に障がいもち、外出の際には車いすを使用する作者がつづった「人間としての訴え」。人物は一切登場せず車いすの絵のみで心の声を表現しています。

「そこに僕はいた」 作：辻仁成 新潮文庫

表題作「そこに僕はいた」では義足の「あーちゃん」と「僕」の交流を通して、障がいを持つ人・持たない人の本当の意味での自然なあり方を考えるきっかけを与えてくれます。

## 福祉出前講座の利用について

### 1. 申込方法

開催希望日の **1ヶ月前**までに、美濃加茂市社会福祉協議会（☎28-6111）まで、

- ・希望の講座内容
- ・希望日時
- ・参加人数、参加する学年とクラス数をお知らせください。

なお、他の業務の都合などにより、希望の日時にお伺いできない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、福祉出前講座依頼書（美濃加茂市社会福祉協議会ホームページからもダウンロード可能）に講座のおおまかな希望内容をご記入いただき、打ち合わせの際にお持ちください。

### 2. 申込後の流れ

#### ①打ち合わせ

子どもたちに何を学んで欲しいか、どんなことを考えて欲しいかなど、講座のテーマになる部分を学校側と社協側で共有します。



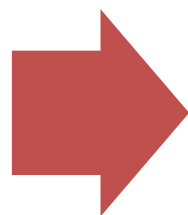
#### ②プランニング

打ち合わせによって共有されたテーマを軸に、社協職員が授業プランを作成します。授業プランは学校側と共有し、修正していきます。



#### ③講座実施

プランニングにより完成した授業プランを元に、出前講座に伺います。



#### ④ふりかえり

授業アンケートによるフィードバックを行い、その結果を報告します。また、その後の学びや福祉活動に繋がるよう、フォローアップを行います。

担当  
美濃加茂市社会福祉協議会  
地域福祉係 麻生・中嶋  
電話 0574-28-6111  
FAX 0574-28-6110

## 福祉出前講座依頼書

依頼者名	(団体名)		(連絡・担当者)	
住 所	美濃加茂市			
TEL			FAX	
開催希望日	第1希望日	第2希望日		第3希望日
開催時間	時 分～ 時 分 (※集合時間 時 分) (※集合場所 )	対象者	( 名)	
学習内容	希望される出前講座のメニュー(福祉のポケットP3～8を参照して、番号と講座タイトルを書き込んでください。)			
	番号	講座タイトル		
	《詳細》希望する学習内容、学習形態、予定している当日の流れ等をご記入ください。 ※資料等ありましたら、ご提出ください。			
学習の目的	※意図する学習のねらい、目的などをご記入ください。			
使用物品	※社会福祉協議会への借用希望物品をチェックしてください。 <input type="checkbox"/> 車いす( )台 <input type="checkbox"/> アイマスク( )個 <input type="checkbox"/> 白杖( )本 <input type="checkbox"/> 点字器( )台 <input type="checkbox"/> 高齢者疑似体験セット大人用( )セット <input type="checkbox"/> 高齢者疑似体験セット児童用( )セット <input type="checkbox"/> その他( )			

※開催希望日の1カ月前までにご依頼ください。  
 ※ご不明な点は社会福祉協議会までお問合せ下さい。  
 ※依頼を確認後、詳細についての打ち合わせをおこないます。

連絡先 美濃加茂市社会福祉協議会 地域福祉係

TEL (0574)28-6111 FAX (0574)28-6110



美濃加茂市社会福祉協議会

地域福祉係

美濃加茂市新池町 3-4-1

TEL 0574-28-6111

FAX 0574-28-6110